

第11期 演劇教育ファシリテーター養成講座

第6回ワークショップ&研究会

アプライドドラマの教育力

物語の中に入り、身体で考え、対話し、「自分だけの答え」をつくる3時間

イギリス発祥のアプライドドラマは、教育や医療、地域コミュニティなど広く社会で実践されている、演劇（物語）の力を応用した専門スキルです。物語の中に登場人物として入っていき、『考える』『判断する』『行動する』『感じる』『話し合う』などを体験しながら新しい「理解」を生みだしてゆきます。その体験の背後にどのような教育的・理論的意味があるのかを考え、明日からすぐに使えるアプライドドラマの仕掛けをお持ち帰りいただきます。

講師 **オーハシヨースケ**（俳優、演劇教育家、NPO 法人 祈りの芸術 TAICHI-KIKAKU 理事長）
成澤布美子（表現教育講師、語り部、あらら企画代表）

◆日時 **2026 年 10 月 24 日（土） 13:15～17:00**



◆会場 **東京 YMCA 山手 コミュニティーセンター 204AB**
東京都新宿区西早稲田 2-18-12 JR・東西線・西武新宿線 高田馬場駅下車 徒歩7分

◆参加費 **1,000 円**（協会会員・学生 500 円） ※前日までにお申し込みください。

◆お問い合わせ/お申込み **演劇教育ファシリテーター養成講座事務局**
メール：geki.facili@gmail.com Tel：090-4535-9655（金平）

主催：（公社）**日本児童青少年演劇協会**（落合聰三郎児童青少年演劇基金助成事業）

後援：（一社）**日本演劇教育連盟** 日本児童・青少年演劇劇団協同組合
東京私立初等学校協会学校演劇研究部 関東地区私立小学校連合会劇部会

このワークショップで、アプライドドラマの魅力を楽しんでもらいたい。

— 物語の中に入り、身体で考え、対話し、「自分だけの答え」をつくる3時間 —

アプライドドラマ（プレテキスト・ベースド・プロセスドラマ）では、物語を外から眺めるだけでなく、登場人物やその場面の当事者になって、考え、判断し、行動します。そして互いの表現を見合い、振り返り、話し合う。「演じる・見る・考える・対話する」がワルツのように絡み合いながら、新しい理解が生まれていきます。

教科書の世界に、身体ごと入ってみる

たとえば小学校4年生の社会科「ゴミ処理場」。みんなの身体で焼却炉をつくり、分別されていないゴミが来たら処理場はどんな表情をするのかをフィジカルシアターで表現する。今度は自分自身が「ゴミ」になり、分別される側も体験してみる。知識として「わかる」とこと、身体を通して「わかる」とことには、どんな違いが生まれるでしょう。

『スイミー』なら、海の不思議な生き物を身体でつくり、魚の群れが泳ぐムーブメントへ。読書活動ならビブリオバトルに「キャッチフレーズ+身体表現」を加える。体育の「ヘンテコ体操」、音楽の「動く彫刻」など、国語・社会・体育・音楽を越えて、身体と想像力を使った学びへ展開できます。

AIの時代だからこそ、「私ならどう考える？」

正しい答えを素早く示すことをAIが得意とする時代だからこそ、「あなたはどうか感じた？」「あなたならどうする？」「なぜそう思った？」という、一人ひとりのユニークな答えを育てる学びが大切になります。「主体的・対話的で深い学び」の“深さ”を生み出す一つの源泉が、アプライドドラマ／アートベース・メソッドにあります。

体験の背後にある理論も、わかりやすく

ヴォルフガング・イーザーの読書行為論では、私たちは文章の「空白（ギャップ）」を想像しながら物語を読みます。アプライドドラマは、その空白へ身体ごと入って考える方法とも言えます。さらに『ジャックと豆の木』を題材に、物語のどこが全体を大きく変えるのかというシステム論の「レバレッジ・ポイント」の視点から、選択や価値観の違いも考えます。

明日から使える技法を持ち帰る

フラッシュ・カンバセーション、イメージ・フラッシュ、フィジカルシアター、動く彫刻、場所を移動しながら見る・感じる仕掛け、イマーシブシアター的な手法など、授業やワークショップで活用できる基本的なスキルを体験します。

3時間で「体験する → なぜ？を考える → 自分の現場へ持ち帰る」

演じる。見る。感じる。考える。話し合う。そして、また演じてみる。身体を使って、自分で感じ、自分で問い、自分だけの答えを生み出す。アプライドドラマの楽しさと教育の可能性を、皆さんと一緒に体験する3時間です。